題名：「人と関わる」が私にくれたこと

静岡県 牧之原市立榛原中学校 三年 櫻井 世奈

皆さんは自分の定番メニューが決まっていますか。私の定番メニューは読書でした。私は小学生の時、一人でずっと読書をしているような子でした。読書が好きだったからです。しかし、読書をしていた最大の理由は、それではありません。読書は、私にとって、自分を守る方法だったからです。私は極度の人見知りで、傷つきやすい性格でした。そんな私にとって、一人で読書をしているのは楽し、誰からも傷つけられることもありません。臆病な私は、変化よりも安定した生活を求めてひたすら読書をしていました。

でも、本当は、輪になって楽しそうに話しているクラスメイトに憧れていました。私もあの輪の中に入って笑い合いたいと思っていました。けれど、

「私にはむり。私なんか話しかけられわけがない。」

と思い込み、読書に逃げてしまっていたのです。

中学生になる時も、大きな環境の変化に、私は心配と不安に襲われていました。しかも、小学校が小規模だった私は、まわりにほとんど知っている人がおらず、余計に不安になりました。

しかし私は、以前母に相談した時に言われたことを思い出しました。母は私に、「そういうものは待っているんじゃないなくて、自分からいかないと変わらないよ。勇気を出して話しかけに行ってください。」

と言いました。私は、自分を変えてみようと思えました。

まず、私は運動部に入部することにしました。新しいことにチャレンジすれば、自分を変えられるのではないかと思ったからです。実際に入部してみると、そこには優しく話しかけてくれる同級生、温かい先輩や後輩がいました。友だちもでき、私はその時、初めて人というものに触れている感じがしました。

人に触れてみて、わかったことがあります。それは、いろいろな性格や様子の子がいるということです。例えば、ノリが良い子。おとなしくて静かな子。今日は落ち込んでいる子。私は、そのいろいろな人をよく見て、心配の言葉をかけたり、面白いことを言ってお笑わせてみたりしました。相手の性格や様子に合わせて、自分を調整して話すことで、だんだん様々な人と話せるようになってきました。私は、このような人との接し方を、部活に入ったことによって、学ぶことができたのです。

また、私が二年生になった時、先生から学級委員をやってみないかと相談されました。クラスのリーダーである学級委員という役割に責任を感じたし、不安の方が大きかったけれど、心のどこかにチャレンジしたい自分もいました。私は、自分の前向きな気持ちを信じ、学級委員になることにしました。学級委員として、学級の話し合いを進めたり、行事に向けてみんなの意見を聞きながら、目標を決めたりしました。

そして、それらを行う中で私はふと思いました、
「まとめることは楽しいな。それを楽しいと思えるってことは、私に向いていたってことなんじゃないか。」
と。私は、「人をまとめるのが得意」という自分の知らなかった一面に出会うことができたのです。

読書という定番メニューから抜け出した私は、自分のまわりにいろいろな良さを持った人がいることを知りました。自分の長所とも出会って、もっと深く自分を知ることができました。他の人と支え合い関わり合う世界は、広くて、豊かで、彩りのある世界なのだとわかりました。今でも一人が楽に感じる時はあるし、読書をしていた頃の自分を嫌いになったわけでもありません。でも、やっぱり誰かと関わることは読書よりさらに楽しいです。友だちは、気弱で臆病な私のことを助けてくれる心強い味方で、支えてくれるかけがえのない存在です。もしも、人と関わることを恐れ、避け続けていたら、今この場にいる私とは一生出会えなかったと思います。だから今、私は、人と関わって良かった、頑張ってチャレンジして良かった、と心から思います。

これから先、過去の私のような人が目の前に現れたら、私から手を差し伸べてあげたいと思います。一人にとらわれない人になれるように。今の私のように生き生きと、自分の人生を広げていけるように。